



谷垣さん家族。律子さんが手にしているのは長男・雄世くん(11)のサッカーユニフォーム。長女は和ちゃん(6)=睦合町で

このへんの 白慢

移住者インタビュー

「介護職と農」両立させたい

今回の「このへん」は睦合町

福岡県と大阪府から移住

「いいいの村」勤務

谷垣 毅さん (39)

谷垣 律子さん (49)

「今はこ以外に住むことは考えられない」と。そう話すのは睦合町に住む谷垣毅さん(39)と律子さん(49)夫婦。毅さんは生まれも育ちも福岡県。家族経営で酒の販売をしてきたが、心境の変化もあり両親と3人で2008(平成20)年に綾部へ移住した。父の実家でもあった綾部。何より「子どもの頃に従弟のお兄ちゃん、お姉ちゃんと遊んだ楽しい思い出」が決め手となった。移住した翌年から「いいいの村聴覚言語障害センター」に勤める。面接では所長が福岡出身だということ、ご近所の知人の親戚だったことが分かり、不思議な縁を感じた。

律子さんは12(同24)年に大阪から綾部へ移住。それまで出張助産師として自営していたが「都会よりも田舎で暮らしたい」という思いが強くなり、知人がいる綾部へ移り住むことを決めた。別々の道を経て綾部へと辿り着いた二人は互いの職場でもあった。谷垣さん(49)は「自分たちが手をいれ、思い入れがある場所」と感じ、思い入れがある場所へ移り住むことになったと毅さん。

ここがオススメ!

念道橋まごの坂道

自転車や三輪車で駆け下りる遊びに子どもたちがハマっています。坂から見渡す田んぼと山の景色は最高に気持ちいいです。



「ご近所同士の温かい交流がある」

「ここにはご近所同士の温かい交流がある」と話す二人は、地域の方々を温かいと感じているという。野菜を分けてもらったり、自分の土地でなくて多量に草刈りをしてくれたり、いつも気にかけてくれていることが分かる。律子さんが母親の介護に奔走していた時に近所さんが声を掛けてくれた「お母さんも大変やけど、子どもたちのことを一番に考えやう」という言葉が、とても温かいと感じた。律子さんは「ご近所同士の交流が、移住してからも大切な支え」と感じている。今後の目標は、野菜作りや米作りを続け、地域とつながりたいという思いが強い。谷垣毅さんは「ご近所同士の交流が、移住してからも大切な支え」と感じている。今後の目標は、野菜作りや米作りを続け、地域とつながりたいという思いが強い。谷垣毅さんは「ご近所同士の交流が、移住してからも大切な支え」と感じている。今後の目標は、野菜作りや米作りを続け、地域とつながりたいという思いが強い。

上限

マイナンバーカードの申請窓口となっている。マイナンバーカードは、約1ヶ月で申請から約1ヶ月で市(得)が必要で、予約はレス決済サービス。

市がマイナポイント予約の支援も

スマ

マイナンバーカードの予約利用するための予約(マイキーIDの取得)が必要で、予約はレス決済サービス。スマ

大切なのは 生活力

「この健康を守るためのチカラ」

ななを響た上は、自然ボ活が、けアセす配成と口と